



Can-do目標	課題・タスク (最終課題)	テーマ・トピック例	Can-do目標細目																
			言語					伝達											
			談話構成 (文章レベル)	談話構成 (段落レベル)	文構成	結束性	スタイル	意見・情報の伝達										その他	
初級1	【短い文章の作成】 ● 日常生活やよく身近なことについて、200字から400字程度の短い文章を書くことができる。	日常生活や身の回りのことに関する説明文 (200~400字程度)	自己紹介、私の部屋、毎日の生活、休みの日にしたこと、私の友だち	【構成・内容】 ・日常生活や身の回りのことについて、3文以上で書ける。		【単文作成】 ・単純な質問に対して単文で答えが書ける。				【文体】 ・「です・ます体」で書ける。		【順序】 ・日常生活について時系列にそって書ける。 (例：大学生生活)							
初級2	【三部構成の文章の作成】 ● 身近なことや自国のことについて、構成を考慮して400字から600字程度の簡単な説明文を書くことができる。 ● 自分の経験について、感想・意見を加えて書くことができる。	身近なことや自国のことに関する説明文 (400字~600字程度)	日本で行ったところ、休みの計画、日本でびっくりしたこと、私の紹介したい町	【構成・内容】 ・身近なことについて、導入・本文・まとめの構成で書ける。		【複文作成】 ・複文 (例：「～ので」「～ば」「～ても」等を使った文) や連体修飾を使った文が書ける。	【接続表現】 ・簡単な接続表現が使える。 (例：「しかし」「そして」「それから」「それに」「たとえば」)	【指示表現】 ・「あれ/あそこ」等を使わずに「これ/そこ」等を使って書ける。	【文体】 ・話し言葉特有の表現を入れずに書ける。 (例：「～よ」「じゃあ」等は入れない)	【意見表明】 ・文章のまとめの段落を意見やコメントで締めくくることができる。 (例：休みの日の経験)	【順序】 ・経験したことについて、時系列にそって書ける。 (例：休みの日の経験)	【理由】 ・理由を示してから自分の気持ちが説明できる。 (例：びっくりしたこと)	【比較】 ・2つのことを比べて説明できる。 (例：自分の国と日本)						
中級1	【説明文・意見文の作成】 ● 自分がよく知っている社会・文化的なことについて、わかりやすい文章構成で説明文を書くことができる。 ● 賛成か反対か理由を示して、意見文を書くことができる。 (400字~800字程度)	抽象的な話題も含む説明文、意見文 (400字~800字程度)	国の有名人、自国の文化との相違、自国の料理紹介、日本で感じたこと	【構成・内容】 ・身近な話題に加えて、抽象的な話題についても、導入・本文・まとめの構成で書ける。	【段落内の構成】 ・文間の意味の流れを組み立てることができる。	【複文作成】 ・複文 (例：「～の場合」等を使った文) や強調構文 (「～のは、～だ」) を使った文が書ける。	【接続表現】 ・基本的な接続表現が適切に使える。 (例：「まず」「次に」「また」「そのため」)	【指示表現】 ・同じ事物を指し示す場合に、適切な指示表現を用いて書ける。 (例：「図書館で借りた本」→「その本」)	【文体】 ・「です・ます体」と「だ・である体」を混ぜずに使い分けられる。 (例：「～です」)	【意見表明】 ・ある立場や見解について、賛成・反対の意見を理由とともに示すことができる。	【順序】 ・何かを行う時の順番が説明できる。 (例：料理の作り方)	【理由】 ・理由を示しながら自分の希望、感想や意見が伝えられる。 (例：日本で感じたこと)	【比較】 ・2つのことを比べて説明できる。 (例：自国と日本の社会問題)	【定義】 ・身近な用語について定義することができる。	【問題点の指摘】 ・ある国や地域の社会的状況について問題点が指摘できる。				
中級2	【基礎的な小論文・レポートの作成】 ● 社会・文化的なことについて、決められた型にそってレポートを書くことができる。 ● 適切な語彙や文体を選択して、小論文を書くことができる。 (600字~800字程度)	社会的・文化的な話題に関する簡単な小論文またはレポート (600字~800字程度)	国の特別なもの、地域の名所、教育の問題、高齢化社会	【構成・内容】 ・モデルに倣って簡単な小論文やレポートの内容を組み立てることができる。	【段落内の構成】 ・中心文と複数の支持文によって段落を組み立てることができる。	【文内の呼応】 ・文頭と対応した文末表現や、決まった表現の結びつきができる。 (例：「なぜなら～からだ」「万～でも」)	【接続表現】 ・文章展開をわかりやすくするための接続表現が適切に使える。 (例：「だが」「または」「なぜなら」「このように」「したがって」)	【指示表現】 ・同じ情報を繰り返して明記せずに、適切な指示表現を用いて書ける。 (例：「このように」「このように」)	【文体・表現】 ・書き言葉的な表現を用いて「だ・である体」で書ける。 (例：連用中止形、「～ないで」→「～ずに」)	【意見表明】 ・事実とは分けたうえで、意見を示すことができる。	【順序】 ・何かを行う時の順番が説明できる。 (例：ゲームの仕方)	【理由】 ・あるトピックについて、理由が説明できる。 (例：ある人物や場所が有名な理由)	【例示】 ・具体例を挙げて、社会的問題の背景が説明できる。 (例：インターネットの問題)	【定義】 ・身近な用語について具体例を挙げて定義することができる。	【問題点の説明】 ・ある国や地域の社会的状況における問題点が説明できる。	【引用】 ・他者の考えを、自分の考えとは区別して示すことができる。	【図表】 ・図表から分かることが説明できる。	【内容の推敲】 ・他者のアドバイスを聞き、自分で文章の流れを整え、組み立て直すことができる。	
中上級	【根拠に基づいた小論文・レポートの作成】 ● 社会的・時事的なことについて、根拠に基づいた小論文またはレポートを書くことができる。 (800字~1500字程度)	時事的な話題に関する小論文またはレポート (800字~1500字程度)	インターネット社会、ごみの問題、男女がともに働ける社会、社内の英語公用語化	【構成・内容】 ・各段落をバランスのとれた配分で論理的につなげることができる。	【段落間の構成】 ・段落間の飛躍がないように、段落をつなげることができる。	【曖昧な文の排除】 ・二義的な解釈が可能な文や修飾関係が曖昧な文を排除して書ける。	【接続表現】 ・複雑な文章の展開をわかりやすくするための接続表現が適切に使える。 (例：「一方」「たしかに～が」「すなわち」)	【指示表現】 ・「こ」と「そ」を適切に使い分けられる。 (例：「研究の目的とその方法」「このグラフを見ると～」)	【文体・表現】 ・より書き言葉的な表現を選んで書ける。 (例：漢語名詞、「まね」→「模倣」)	【意見表明】 ・根拠に基づいて、意見を示すことができる。	【順序】 ・原因や理由が順序立てて説明できる。 (例：社会的な問題の原因)	【理由、原因】 ・あるトピックについて、理由や原因が説明できる。 (例：自国の問題とその原因)	【例示】 ・効果的な具体例を挙げて、社会現象が説明できる。	【定義】 ・専門的な用語を正確に定義することができる。 (例：自分の専門に関連する重要な用語)	【問題点の指摘】 ・専門的・時事的なテーマについて問題点が指摘できる。	【引用】 ・他者の文章を直接引用して示すことができる。	【図表】 ・図表から分かることをレポートに組み入れることができる。	【内容の推敲】 ・他者のアドバイスを聞き、自分で論理の流れを整え、組み立て直すことができる。	
上級1	【説得力のある根拠と分析に基づいたレポートの作成】 ● 時事的、やや専門的なことについて、多様な表現を適切に用い、全体としてバランスのとれた配列で、説得力のあるレポートを書くことができる。	時事的・やや専門的な話題に関するレポート (1500~4000字程度)	課題ごとの指定テーマまたは学生による自由選択 (日本や自国の社会問題等)	【構成・内容】 ・適切なテーマを選択し、各段落を論理的かつ説得力のある配列でつなげることができる。	【段落内・段落間の構成】 ・段落内・段落間の論理の流れをつなげることができる。	【体言止め】 ・内容を簡潔に表す題目や副題、章ごとの見出しをつけることができる。			【文体・表現】 ・より書き言葉的な表現を選んで書ける。 (例：「～を展開する」→「～の展開」、自動詞や受身を使った文)	【意見表明】 ・説得力のある根拠に基づいて、意見を示すことができる。	【順序】 ・歴史的な経過が説明できる。 (例：行事等の歴史)	【方向付け】 ・レポートの目的を示すことができる。	【例示】 ・効果的な具体例を挙げて、社会現象の説明や経緯の解説ができる。	【定義・分類】 ・専門的な用語の定義や分類ができる。 (例：自分の専門に関連する重要な概念)	【問題点の解説】 ・専門的・時事的なテーマについて問題の所在が説明できる。	【引用】 ・他者の文章を自分の言葉に言い換えて正確に引用することができる。	【図表】 ・論拠を明瞭にするために図表が提示できる。	【表現の推敲】 ・他者のアドバイスを聞き、辞書やコーパスを使って、より適切な語彙・表現を選ぶことができる。	
上級2	【多角的な観点からの分析に基づいた考察を含むレポート・論文の作成】 ● 時事的、専門的なことについて、効果的な表現で、多角的な観点からの分析に基づいた考察を含むレポートまたは論文を書くことができる。	時事的・やや専門的な話題に関するレポートまたは論文 (4000~8000字程度、A4で8枚前後)	課題ごとの指定テーマまたは学生による自由選択 (学生の専門に関連するテーマ)	【構成・内容】 ・テーマを絞り、提起した問題に対して、結論を導き出すことができる。				【文体・表現】 ・論文特有の表現が使える。 (例：「本稿では～」「今後の課題は～」)	【意見表明】 ・反例の問題点も指摘したうえで、主張を通すことができる。	【列挙】 ・専門的な研究や調査等の手順を示すことができる。	【方向付け】 ・レポートや研究の目標を規定する文が書ける。	【今後の課題】 ・レポートや研究の今後の課題を示すことができる。	【定義】 ・専門的な用語を定義したうえで、研究の範囲を明確に示すことができる。	【問題提起】 ・専門書を読み、そこから執筆するテーマにつながる問題を提起することができる。	【引用】 ・本や論文から必要な情報を過不足なく要約して引用することができる。	【図表】 ・論拠を明瞭にするために、効果的に図表が提示できる。	【表現の推敲】 ・辞書やコーパスを駆使し、自分でより適切な表現に修正することができる。		
超級	【執筆計画に則った独創性のある論文の作成】 ● 時事的、専門的なことについて、独創性のある論文を書くことができる。	自分の専門に関する論文 (8000~15000字程度)	課題ごとの指定テーマまたは学生による自由選択 (学生の専門に関連するテーマ)	【構成・内容】 ・テーマを掘り下げ、提起した問題に対し、説得力のある結論を導き出すことができる。				【文体・表現】 ・論文特有の表現が使える。 (例：「本節では～」「～については扱わない」「～を扱わなかった」「～を論じる」)	【意見表明】 ・反論を予測したうえで反駁を加え、主張を強化することができる。	【列挙】 ・専門的な研究や調査等の手順をまとめて簡潔に示すことができる。	【方向付け】 ・論文や研究の目標を規定する文が書ける。	【展望】 ・論文や研究の今後の課題や展望を示すことができる。	【定義からの展開】 ・専門的な用語を定義したうえで、論を展開していくことができる。	【問題提起】 ・先行研究から執筆するテーマにつながる問題を提起し、それに回答することができる。	【引用】 ・先行研究からの引用部と自説とを明確に区別して書ける。	【図表】 ・論文の説得力を高めるために、効果的に図表が提示できる。	【表現・表記の推敲】 ・自分で論文の推敲 (誤字脱字や表記の不統一の修正) ができる。		

全レベル共通目標	<p>【伝達性】 ▼自分の伝えたい内容を読み手に伝わるように書くことができる。</p> <p>【談話構成】 ▼文章をわかりやすく組み立てることができる。</p> <p>【既得知識の活用】 ▼既得の知識、学習済みの文字・語彙・文型等を積極的に運用して書くことができる。</p> <p>【条件の把握】 ▼与えられた課題や文字数等の条件に応じて、内容の取捨選択ができる。</p> <p>【倫理的配慮】 ▼インターネット上の文章等を剽窃することなく、自分の力で書き上げることができる。</p> <p>【態度 (意欲)】 ▼読み手を意識しながら、意欲をもって書き上げることができる。</p>
----------	--